

# SDGsに取り組む各種団体等の特集記事

2022年度 マンスリーSDGs（北日本新聞） 第1回掲載日 2022年9月28日

## 子どもたちにも届けたいSDGs

富山市は「SDGs未来都市」に認定されてから今年で5年目を迎えました。市民や企業にSDGsについての理解が深まり、一人一人が具体的な行動に移すことが期待されます。今回は、将来を担う子どもたち向けの取り組みなどを紹介します。

### 社会福祉法人宜長康久会 ささづ苑

特別養老ホームささづ苑は、子どもたちのふれ合いと施設利用者の元氣な顔づくりを目的に、同苑で「プレイセンター」（富山市下大林）で神遊館から年生とeスポーツを通じた交流を開きました。

### 新たな発見に世代間交流

地域の民生委員や同苑の職員と児童らが「だれもが安心・安全に暮らせるまち」をテーマに、SDGsの視点に沿って「困りごと」を分ち合えることを出し合いました。SDGsを中心に、世代間交流や地域の問題の発見、共通課題の理解などが図られました。



小学生と交流する施設利用者（左から）

### 富山市立豊田小学校

富山市は、市民を中心として温室効果ガスの削減を目指す「チームやまじ」の事業の一環として、小学生に環境について考えをもち、出前講座を開催。イベントを通じて、児童の環境意識を高め、SDGsにも関心を持ってもらいたいと考えています。

### 環境意識高めSDGsに関心を

体験した北野真君は「すくすくができた。100年後の気温が40度を超えるかもしれないなど、世界にはさまざまな問題があると分かった」と話しました。



すくすくを楽しく児童と豊田小

### 大和富山店 × ハゲオール

大和富山店は、今年8月に「グライワSDGsストア」を開催しました。関連イベントとして、6階ホールで、ブックオフ、プレイセンター、ハゲオールによる「SDGsストア」が開かれました。

### 将来世代へイベントで発信

立が大事。将来を担う子どもたちのためにも、この開業やエンカール消費ものを大事に使うことを訴えたい」としました。大和富山店の安井忠則販売促進部長は、日頃の業務からお客様へのSDGs意識の高まりを感じることが増えた。また実施した「ごみ回収」を感銘して、手ごたえを感じていました。



親子向け開業イベントの様子

# 企業がすすめるSDGs

富山市は「SDGs未采都市」に認定されてから今年5年目を迎え、市民や企業のSDGsへの理解や実践が期待されます。今回は、企業がどのようにSDGsに着手し、どのような効果があったのかを紹介し、これから取り組みたい企業のヒントとします。

## タニハタ



技術者を育てるために、はぎの職人の技を継承する。

組子建具などを製造するタニハタ(富山市赤江)は、木材を使う会社ならではの取り組みでSDGsを推進しています。組子は、釘を使わずに木を幾何学文様に組み付ける伝統木工技術。製品に木を多く用いるため、杉やヒノキなどの原材料はできるだけ産地から調達しています。工程で生まれたおがくずは、自社内で圧縮して六六レット加工。冬季の暖房の燃料に再利用しています。社内は太陽光発電や水力発電を使用しCO<sub>2</sub>の排出がほぼゼロに抑えられています。2021年には環境省の

## 伝統木工技術から脱炭素実現へ

外の顧客が来社した際に、日本の伝統文化を感じてもらいたいという思いもあり、谷端社長は、夏に学生を、組子だけで現場への関心が高く、私たちが客さまから受け取られることも多い。SDGsへの意識の高まりはビジネスチャンスにもなっており、これからも進めたいと話しています。

## 前田建設



耐震工事の進捗や目的について説明する同社社員。

## 小学生とともに理解深める

前田建設(富山市安住町)は、担当した同市の久保小学校の耐震工事をきっかけ、「建設業が取り組むSDGs」について出前講座を開催。校内の工事現場を見学するだけでなく、建設業がどのようにSDGsに取り組んでいるかを同社員が講師となり実施しました。現場に設置されたSDGsの分別ボックスの意味や、耐震工

## テレ通



ZEBに加えて、富山市災害準備センターの稼働も進められています。

## 新社屋契機に環境と防災強化

ルギー(ゼロ)の認定を受けました。太陽光パネルによる自家発電に加え、モバイルバッテリーを備蓄していることや、災害時、地域住民がスムーズに避難できることなどを「富山市災害時等協力事業所」に認定され、社内で住民受け入れのことが可能になっています。指定避難所とな

# SDGs 広がりつながる

富山市は「SDGs未采都市」に認定されてから今年5年目を迎え、市民や企業のSDGsへの理解や実践が期待されます。今回は、市民向けにどのような取り組みが広がっているかを紹介し、私たちが出来ることを知るヒントとします。

## 富山広域連携中核都市圏



富山市は、市まちなか総合アセンタ(兼曲輪)でSDGsセミナーを開催。富山広域連携中核都市圏の職員や民間企業・団体、学生など約20人が参加しました。講演やワークショップ、カードゲームを通じた自覚職員間や、産学官民の交流を図るとともに、SDGsへの理解を深めました。講演では、SDGsコンサルタントの中島達朗さんや、地方自治体や民間企業の事例を挙げ、2030年まで目標達成することの重要性を説明。職場や学校、日常生活での課題と

## まちづくりのヒント探る

それぞれの立場から地域の課題解決を目指すもので、環境や経済などを好循環につなげるためには対話が重要だと認識しました。参加した富山中中部中学校の女子生徒は「よりよい未来を求め、取り組んでいる地域や企業、人に応援したい」と話しました。

## フューチャリティ ファアポレ



フアポレは、富山市と日本財団が連携して進める海洋系前線プロジェクトの一端で、資源のリサイクルを促す活動に取り組んでいます。10月には2回目の「フアポレ」リサイクルキャンペーンを実施。家庭で不要になった衣料品などを店内で回収し、NPO法人リサイクルエシエンジャパンを通じリサイクル業者に売却。同法人を経て、利益をママンやペトナムの支援に充てる仕組みです。また店内の一部店舗で使用できるクーポンを発行するなど、参加し

## 循環型社会 買い物物客と

行動していいから分らないという人も参加しやすいのでは」と、手応えを話します。11月20日には、「リサイクルファッションショー」を開催し、再生ポリエステルを使用した洋服をPR。これからはエンカ消費を促進していく考えです。

## ボディセンス・インスティテュート



年5月から「企業主導型面談級」を開始しました。コロナ禍で既存の両親学級が中止やオンラインになる中、ヨガ教室などを運営する同法人の高橋出紀代表理事が、妊産婦の不安解消につなげたいと企画。趣向に富山民間企業や市民の協賛で、全5回にわたる講座を開いて

## 子どもの未来 両親学級から

積極的な育児参加を促し、子どもの健康だけでなく、ジェンダー平等の実現にもつなげていきたいと思います。高橋代表は「今後は市の市町村でも開催を考へている。発達に課題がある子どもへの運動療法なども指し、誰にもチャンスがある社会を目指したい」と、これからの目標を語りました。

# こんなところにSDGs

富山県は「SDGs未来都市」に認定されて今年5年目を迎えました。市民や企業の間でSDGsについて理解や実践が一層進むことが期待されています。取り組むのヒントとなるような、身近な生活の場面で実行されている活動を紹介します。

## 「分りやすさ」から行動に

一般社団法人SDGs支援機構(東京都)は、SDGsに役立つ情報を発信する「SDGsシナリオ」を運営し、ウェブサイトや動画配信を通じ、専門知識のない人々にも分かるような情報発信を行っています。

同機構の深井宣光事務局長(富山県)は、「分りやすさ」から行動に



小学生向けに講演を行う

## 北 梨が育む4つの宝

梨が育む4つの宝

梨が育む4つの宝



梨の産地をめぐりながら

## 野上緑化



公園に設置された緑化遊具

## 公園だからできること

公園だからできること

# 広がるSDGsの輪どこまでも

富山県は「SDGs未来都市」に認定されてから5年目を迎え、市内ではSDGsに関する取り組みが広がりをみせています。今回は、独自の取り組みを進める企業や団体、学校を紹介し、SDGsを知り、理解し、行動に移す際のヒントとします。

## 寒江小学校



マレーシアとの交流の様子

## マレーシアと異文化交流

マレーシアと異文化交流

## トトン(米三)



デザインなど施されたアップサイクルされた家具

## サステナブルなものづくりに触れて

サステナブルなものづくりに触れて

## なかに印刷



和紙のちぎれが紙の裏面に残る

## バナナがつなぐ世界とのつながり

バナナがつなぐ世界とのつながり